

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	家政学部 生活造形学科
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

生活造形学科の教育目標は、大学の教育目標を踏まえて次のように設定している。
 《家政学部「人材養成に関する目的」のもと、生活造形学について、体系的かつ実証的な学びを提供します。「人間にとって快適な生活環境とは何か」をテーマとして、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の3領域に関する専門的知識・理解を深め、4年間の学びを通して、情緒豊かで高雅な、凜とした品位ある女性人材の養成を目指します。卒業後には、文化・デザイン分野、ファッション・繊維分野、建築・インテリア分野など、生活環境についての深い素養を活かした分野で活躍できるよう期待しています。》
 生活造形学科の教育目標は、大学及び学部の教育目標から導かれ展開する構成となっており、その関連性は保たれている。
 以上により、現時点で変更の必要性は生じていない。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

生活造形学科の教育目標は、「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表1「教育目標」に明示され、また「学園要覧」、学科ホームページ(<http://www.kyoto-wu.ac.jp/gakubu/faculty/zokei/index.html>) 等において広く社会に公示し、オープンキャンパス等においても積極的にその伝達を図っており、大学構成員のみならず広く社会に向けて発信している。

また、大学構成員、特に学科に所属する学生に対しては、毎年度更新・編集されている「学習の手引き」や履修ガイダンス、オリエンテーションを通じて、本学科の理念・目的、教育課程、育成する人材像などについての説明を行なっている。

2016年度学生生活実態調査Q5「自分の所属する学科・専攻の教育目標や人材養成目標等を知っていますか」に「はい」と回答した本学科学生の比率は18.4%となっている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき項目なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

2016年度学生生活実態調査における認知率が18.4%であったため、2016年度同調査と同程度の率 30%まで向上させることを目標として周知に取り組む。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 個別の視点での入力不要
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 教育目標は「学園要覧」、学科のホームページ等において広く社会に公示し、オープンキャンパス等においても積極的にその伝達を図り、大学構成員のみならず広く社会に向けて発信している。また、学生に対しては「学習の手引」や履修ガイダンス、オリエンテーションを通じて、本学科の理念・目的、教育課程、育成する人材像などについての説明を行なっている。しかし、2016年度学生生活実態調査で「学科の教育目標や人材養成目標等を知っている」学生の比率は18.4%と低値であった。2018年度の調査では30%まで向上させることを目標とし、その周知に取り組むとの数値設定を行っているのは評価できる。さらに学生への周知徹底を図る方策を検討していただきたい。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	家政学部 生活造形学科
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

生活造形学科の学位授与方針は、2016年度に見直しを行い、教育目標との関係においてその内容を検討し、「人間にとって快適な生活環境とは何か」をテーマとした学びのなかで身につけるべき能力を学位取得に必要な条件として、それを6つの項目に分類し、それぞれに具体的内容を箇条書きでまとめた。それを、2017年度4月1日施行として「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」第3条 別表2の「学位授与方針」において、明示している。以下、その6つの項目を示す。なお、それぞれの具体的内容は割愛する。

(1) 知識・理解、(2) 汎用的技能、(3) 思考・判断、(4) 対話・相互理解、(5) 社会性・自律性、(6) : 自立性

なお、学位授与方針は、学科HPや学習の手引において、広く公示している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

生活造形学科の「学位授与方針」に掲げる能力を修得させるため「京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表3の「教育課程の編成・実施方針」を定めている。「教育課程の編成・実施方針」では、「学位授与方針」との関連性を踏まえ、回生ごとの教育課程の編成内容を示している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
生活造形学科における専門科目は、教育課程編成・実施方針に基づき、各科目の連携を図り体系的な教育課程を編成し、実施している。具体的には、以下のような体系づけをおこなっている。1年次では、生活造形の基礎を学ぶとともに、デザイン、アパレル、空間など、3領域に関する基礎的知識を身につける。また演習・実習で専門領域を学び進める。2年次では、発展的講義で各専門領域の学びを深める。また、各自の興味に応じ、演習・実習形式での学びを通して、主体的に調査し考える力を養う。3年次では、発展的講義で各専門領域の学びをさらに深めていく。後期にはゼミ単位に分かれて専門演習をおこない、主体的に調査し、批判的・合理的に考える力を養うとともに、課題発見力や課題解決力を身につけ、表現能力・対話能力も高めていく。4年次では、1つの分野に絞って、一段と専門性の高い知識・技能を身につけるとともに、指導教員の個別指導のもと4年間の学修を総合して卒業研究を完成させ、生涯にわたって学び続ける能力の確立を目指す。 ちなみに、平成30年度入学生では卒業までに74単位の修得が必要となっており、1回生20科目、2回生38科目、3回生35科目、4回生7科目合計100科目が開講されている。 なお、生活造形学科の全科目について、学位授与の方針に基づき(1)知識・理解、(2)汎用的技術、(3)思考・判断、(4)対話・相互理解、(5)社会性・自律性、(6)自立性の6つの能力に関与する程度を示すことで、教育課程が体系的に編成されていることを、わかり易く簡略化したカリキュラムマップを作成し「学習の手引」「家政学部生活造形学科HAND BOOK 2018」において明示している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
本学科では、教育目標達成のため、以下のような体系的学習システムを構築している。1年次においては20名程度6クラスに分かれて、それぞれのクラスで1名の専任教員が担当する必修科目として、生活造形基礎演習Ⅰ(前期)と生活造形基礎演習Ⅱ(後期)を設置している。生活造形基礎演習Ⅰでは、学内での授業(講義、レポート作成)と学外での授業(見学)などを組み合わせて、学習方法の基礎を指導し、生活造形基礎演習Ⅱにおいては、生活造形基礎演習Ⅰで入手した資料を用いて、さらに内容を発展させる研究の方法を具体的に指導し、大学での学習の指針を与えている。2年次、3年次前期は、実験実習において30名以下の少人数で指導するアドバイザー科目を設置し、きめ細かな指導をおこなっている。3年次後期には、必修科目として生活造形専門演習(プレゼミ)を設置し、ゼミ分けをおこない、卒業研究に向け、その研究の基礎となる学びを提供している。そして4年次で、それまでに学んだ学習方法を駆使しておこなう卒業研究・論文作成を指導し、それをプレゼンテーションする場として卒業研究発表会を設けている。 また、履修指導については、必要に応じて個々の学生のGPAに基づき実施している。 シラバスについては、学生の学びに有用な内容になるよう、各教員が各項目について明確にかつ具体的な表現になるよう留意し、その質を担保するべく、教員の第三者がその内容をチェックしている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 シラバスにおいて、「評価項目」「配分(%)」「評価に観点」等の評価基準を明らかにし、厳格な成績評価に努めている。提出された各学生の成績は、教務課・教務委員会によって確認され、適切な単位認定が行われている。 学生に通知された成績について疑問がある場合の問い合わせ期間を設け、成績評価が適切に行われるよう取り組んでいる。 また、履修要項第42条2に、「GPAが一定基準を下回った場合は、教員による面談を受けなければならない」と規定して成績不良者への指導体制も整備している。加えて、面談・指導後も一定期間にわたり成績の改善が見られない者に対しては、学修上の指導または各種勧告(改善勧告、休学勧告、退学勧告のいずれか)を行うことがあると定めている。 学生からの成績問い合わせ期間としては、各セメスターにおける成績発表後1週間を設定しており、期間中は単位不認定の科目に限り、教務課を通して授業担当者に問い合わせができる体制を整え、客観かつ厳正な運用を行なっている。 卒業判定に関わることは、本学科では、各学生が学位授与方針で掲げた能力を身につけているかを確認するため、大学での学びの総括として卒業研究を課している。そして、そのレベルをチェックするため、中間発表会および卒業研究の発表会を行い、全教員で認定を行っている。卒業研究が、目標に沿っていない、あるいはその水準が満たされていない場合、単位を保留し、更に指導を行うことにしている。その際、保留後の指導は、指導教員が1人で行うのではなく、関係領域の教員全員で責任をもって指導するという体制をとっている。なお、最終の卒業判定は、家政学部教授会の審議事項であり、原則として全教員の同意の下に決定されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 学習成果を測定する評価指標としての本学科の累積GPA、就職率、大学院進学率を以下に示す。2018年3月卒業者の数値は、2014年入学者数(123人)に対して、累積GPAの平均値は、2.72、就職率84.6%(104人)、進学率6.5%(8人)である。 なお、2017年度より学修ポートフォリオを導入しており、これを利用して学習成果の把握につとめている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教育課程及びその内容、方法の適切性については、以下のような内容を、学科会議において、適宜検証している。 ・新学期に、受講希望学生の数を検証し、場合によってはクラス分けを検討している。 ・時間割について検証し、学生が幅広い分野を学べるように調整している。 ・3回生後期に決定されるプレゼミ生の研究室配属について、前期中に学科会議で調整を重ねて決定している。 ・「各学科・専攻でのFDの取り組み」についての検討をおこなっている。 ・4年に一度実施されるカリキュラム改革において、学科のワーキンググループで、問題点の検証と改善案の検討をおこない、それを学科会議に諮り、新カリキュラム案を作成している。 その他の改善に結びつける取り組みとして、全学のFD講演会の参加、公開授業への参加をおこなっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 改善・向上の取り組みの根拠として、複数の評価指標を用いた多面的評価をおこなう。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 履修指導については、必要に応じて個々の学生のGPAに基づき実施している。シラバスにおいて、「評価項目」「配分(%)」「評価に観点」等の評価基準を明らかにし、厳格な成績評価に努めている。その他、教育課程及びその内容、方法の適切性の検証も適宜行われている。これらの教職員の取り組みは、2017年度の授業アンケート結果が示すように、学生へも伝わっており、高く評価できる。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	家政学部 生活造形学科
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

京都女子大学人材養成・教育研究上の目的に関する規程別表4「入学者受け入れの方針」において、求める学生像や修得しておくべき知識等を明示し、その内容はウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本学科の学生募集および入学者選抜については、学部教授会にて審議・承認を得るという手続きをとっている。学生募集においては、募集人数に対して十分な競争的環境を保つ受験者数を確保している。入学者選抜は、指定校推薦入試、公募推薦入試、一般選抜、社会人特別選抜、AO入試、一般入学試験、推薦編入学試験があり、いずれも学科の定めた入試科目や方法に従い、受け入れ方針に基づいて、公正かつ適切に実施されている。AO入試は、本学科では初の実施であったが、募集人員6名に対して25名の受験者を得て、作品集を含む書類審査、デッサン、構想表現、面接によって多面的に評価し、本学科の求める入学者を選抜することができた。

入学定員充足率は、2013年:1.33、2014年:1.21、2015年:1.30、2016年:1.09、2017年:1.02、と、毎年減ってきている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

入学定員充足率が、2013年:1.33、2014年:1.21、2015年:1.30、2016年:1.09、2017年:1.02、と、毎年減ってきており、改善傾向が顕著である。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 学生の受け入れの適切性については、学部入試委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜、学科会議に報告されるとともに、必要に応じて審議している。この審議結果をもって、学部選出教員1名が全学の入試制度委員会に出席し、本学部の個別的観点に基づく学生募集および入学者選抜の在り方について意見を述べ、全学的なレベルでの調整を行なっている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 生活造形学科の「入学者受け入れの方針」では、求める学生像や修得しておくべき知識等を明示し、その内容はウェブサイトや募集要項で広く社会に公表している。入学定員充足率が、2013年:1.33、2014年:1.21、2015年:1.30、2016年:1.09、2017年:1.02、と毎年減ってきており、改善傾向が顕著である。学生の受け入れの適切性については、学部入試委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜、学科会議に報告されるとともに、必要に応じて審議している。この審議結果をもって、学部選出教員1名が全学の入試制度委員会に出席し、本学部の個別的観点に基づく学生募集および入学者選抜の在り方について意見を述べ、全学的なレベルでの調整を行なっている。以上の現状把握から、学科の学生受け入れに対しては問題ないと評価する。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	家政学部 生活造形学科
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ・教員像については、「京都女子大学教員資格審査規程」により、それぞれの職階ごとに定められている。 ・生活造形学科では、教育課程および研究対象領域を踏まえて教員組織の編制方針を定め、教員人事にあたっている。具体的には、部門で検討し、それをもって学科会議で策定した公募採用人事案を全学の人事委員会にて提案し、審議・了承を得ている。 ・生活造形学科個別の教員組織の編制方針は明示されていないが、教員採用条件を決定する際に、学科会議にて十分に議論されている。 ・教員組織の編制について学科会議で議論することで、各教員間が共通認識をもっている。 ・選考の際には、大学の規定に沿って、各部門から選出された選考委員による書類選考や面接が行われ、候補者を選定している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 教員組織の編成方針については、対外的に明示できていないため、明文化に向け方策を検討する。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ・2018年4月現在14人の教員によって編制され、学科共通基礎科目と各専門分野の専門科目、資格取得のための科目を提供するために必要な専門知識・経験を備えた教員を配置し、全教員が大学院を兼任できるレベルである。男女の内訳は、男性7名、女性7名である。 ・生活造形学科は3分野から構成されており、教員組織は、教員の専門分野が偏ることのないよう各分野における教員数を定めているが、編成の内訳は、造形意匠分野が4人、アパレル造形分野が5人、空間造形分野が5人と、造形意匠分野が他分野より1名少ない状況にある。 ・職階は、2018年4月現在、教授7人、准教授7人になっている。職階の内訳としては、造形意匠分野は教授1名・准教授3名、アパレル造形分野は教授3名、准教授2名、空間造形分野は教授3名、准教授2名である。 ・専任教員1人あたりの学生数は、33人(2017年度在籍学生ベース)となっている。 ・生活造形学科開設総科目数に占める専任教員の担当科目の比率(専兼比率)は、50%となっている。なお、専門領域においては、必須科目はすべて専任教員が担当している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

教員の募集・採用に関しては「京都女子大学教員資格審査規程」、昇格に関する規程は「京都女子大学教員人事委員会規則」に定められており、規程および手続きは明確化されている。人事については、「京都女子大学教員人事委員会」が設けられ、「常設人事委員会」と「選考委員会」とによって構成されている。常設人事委員会は、学長を委員長として、大学全体の教員人事に関して、総合的かつ具体的に検討し、教育研究上の適正を期するために協議を行っている。

選考委員会は個別の教員人事に関して、該当する学科・教室の教員を主たる構成員として構成されるものであり、教授4名で構成することとしている。選考委員の選出については、生活造形学科では、専門分野が多岐にわたり、選考の公平性、正当性を保ち、混乱をさけるため、採用教員が所属する分野から2名、他の分野から各1名の計4名の教授が担当することを学科内の申し合わせ事項として定めている。

これらの教員人事に関しては、全て家政学部教授会の審議事項であり、原則として全教員の同意の下に決定されている。このように規程等に従った適切な教員人事が行われている。なお、2018年度は、専任教員(准教授)2名の採用をおこなった。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

・教員は、毎年、研究活動、研究成果報告書を提出している。各教員の業績はWeb上の[教員業績データベース]で随時入力が可能であり、ホームページ上の教員紹介から閲覧できるようになっており、生活造形学科では全教員が登録している。

・毎学期末に「授業アンケート」を実施し、学生の意見を参考に教員自らが資質の向上を図っている。

・FD推進活動の一環として、教員を対象とした公開授業が行われており、本学科の参加教員は2018年前期、14名の専任教員の内9名が参加。

・生活造形学科では、教員の資質の向上を図るため、紀要として『生活造形』を毎年発行している。なお、2016年度からは、これを論文集と作品集に分離することとし、初刊として『生活造形62号－作品集－』を、2017年度には『生活造形63号－作品集－』を発行した。

・卒業研究の公開発表会を行い、担当教員だけでなく領域を超えて全教員で審査を行っている。2017年度はFD推進活動の「各学科・専攻でのFDの取り組み」として、その発表環境整備を行い、質の向上を図った。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本学科では、毎年度実施する自己点検・評価の他、カリキュラム検討等に合わせて、教員組織の適切性について点検・評価をおこなっている。また、その結果をもとに、必要に応じて、学科会議で公募採用人事案を策定し、全学の人事委員会にて提案している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし。

<p>【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。</p>
<p>【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。</p>
<p>【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。</p>

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

<p>一般的なコメント(総評) 生活造形学科では、2018年4月現在14人の教員によって編制され、学科共通基礎科目と各専門分野の専門科目、資格取得のための科目を提供するために必要な専門知識・経験を備えた教員を配置し、全教員が大学院を兼任できるレベルである。毎年、研究活動、研究成果報告書を提出している。各教員の業績はWeb上の[教員業績データベース]で随時入力が可能であり、ホームページ上の教員紹介から閲覧できるようになっており、生活造形学科では全教員が登録している。また、FD推進活動の一環として、教員を対象とした公開授業が行われており、本学科の参加教員は2018年前期で14名の専任教員の内9名が参加した。以上の現状に鑑み、学科の教員と教員組織はなんら問題なく評価できる。</p>
<p>改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)</p>

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

<p>意見</p>
